

# プロトラブズ「短納期システムが日本のモノづくりを支える」 新社長トーマス・パン氏に聞く

射出成形や切削加工による試作・部品の短納期サービスを展開するプロトラブズ（神奈川県海老名市）の新社長にスリーディー・システムズ・ジャパン前社長のトーマス・パン氏が就任した。ラピッドプロトタイピング（RP）機の黎明期から日本市場開拓に取り組んできた経験を新天地でいかに活かしていくか。国内の試作・部品需要の掘り起こしに向けた抱負を聞いた。

（編集部）

一光造形から樹脂成形へと環境が大きく変わりました。

「大学院卒業後に米国のスリーディー・システムズに入社してほぼ一貫して光造形・粉末造形システムによる RP の開発、市場開拓に携わってきた。RP 機市場も広がってきたものの、樹脂成形の市場ははるかに大きい。その中で、プロトラブズの短納期システムは低コストも実現し、今後さらにスピードが要求される日本のモノづくりに貢献できると判断した。前職で日本法人を設立し、RP の普及に取り組んだ経験をプロトラブズで活かし、画期的な短納期システムの認知度を高めていく」

一プロトラブズのシステムに魅かれたポイントは

「まずビジネスモデルに魅了された。親会社の米 Protlabs が開発した短納期システムは双方

向対話をベースにモノづくりを進めることで、顧客とのパートナーシップを生み出す魅力的なモデルだ。毎秒 3 テラ FLOPS の演算処理能力を備えた並列処理サーバーと独自開発のソフトウェアを活用したシステムは、顧客の 3 次元データから加工工数などを自動的に判断し、瞬時に正確な見積もりや納期を計算、24 時間以内で提示できる。さらに同時に加工・成形の工法や条件なども確定するので発注後即時に製造を開始できる。この結果、樹脂成形（プロトモールド）、切削加工（ファーストカット）も最短 24 時間で製品を出荷できる。また初期成形サンプル以降も順次必要数を短納期で成形できるので、小ロット生産やオン・デマンド生産にも対応できる。」

一従来のモノづくりとの違いはどこにありますか。

「日本の場合、成形、加工とも顧客の要望をすべて受け入れてしまうことでコスト、納期が合わなくなってきた。当社の場合、顧客との対話を重視している。加工の可否、納期とコスト、加工後の予想品質までも瞬時に明確に提示できるので、QCD のニーズに合ったモノづくりができる。顧客と協力してモノをつくる点が大きな違いだ。」



トーマス・パン氏

南カリフォルニア大学で工分子物理化学の工学博士号を取得、89 年米スリーディー・システムズ・コーポレーション入社。2002 年にスリーディー・システムズ・ジャパンを設立し、社長就任。10 年 11 月から現職。高校卒業まで日本で過ごし、日米での生活は「人生のほぼ半分ずつ」。東京都出身、1960 年 4 月 4 日生まれ、50 歳。

一需要拡大への今後の取り組みを聞かせてください。

「当社は 09 年発足し、10 年はビジネス元年として本格スタートした。11 年は新たな取り組みとしてセミナーを実施し、3 月に東京、9 月に大阪での開催を予定している。欧米では Web 中心でこうした活動はなく、日本に合った方法で広めていきたい。需要増に対応するために海老名での設備拡大、人員増強にも着手したところだ。早期に欧米に並ぶ規模に事業を拡大していきたい」